

4 大麦

(1) 国際的な大麦需給の概要

○2009/10年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、豊作であった前年度に比べて単収が低下することから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、飼料用需要およびその他需要が増加するとの見込みから、消費量の増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから在庫が減少すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、収穫面積の増加が見込まれるものの、好天に恵まれた昨年と比較して、単収が低下するとの見通しから、オーストラリア等で増産となるものの、ロシア、EU、カナダ、ウクライナ等の主要生産国で減産が見込まれ、世界全体では前年度より11.0百万トン減少(▲7.2%)し、142.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.2百万トン上方修正されており、国別にはウクライナ、EU、カナダが上方修正、ロシアが下方修正された。

【消費量】

消費量は、ロシア、カナダ等で減少するものの、飼料用需要を中心にEU、ウクライナで増加が見込まれ、世界全体では前年度より3.2百万トン増加(2.3%)し、146.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で1.8百万トン上方修正されており、国別にはEU、ウクライナが上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、2.1百万トン減少(▲10.6%)し、17.9百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では、アルゼンチンで輸出量の増加が見込まれているが、ロシア、EU等では減少が見込まれている。輸入国では、イランやシリア等では減少が見込まれている。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体では0.2百万トン上方修正された。輸出国についてはロシアが上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、世界全体で生産量が消費量を下回り、ロシア、EU、カナダ等で減少し、世界全体では前年度より3.4百万トン減少(▲11.2%)し、27.2百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は18.6%(2.8ポイント減)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、世界全体で0.6百万トン下方修正されており、国別には、ウクライナ、カナダで上方修正、ロシア、EUで下方修正された。

表-1 世界の大麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.0	153.9	142.9	0.2	▲ 7.2
EU-27	57.5	65.6	60.8	0.4	▲ 7.3
ロシア	15.7	23.1	16.0	▲ 1.0	▲ 30.7
カナダ	11.0	11.8	9.0	0.1	▲ 24.0
ウクライナ	6.0	12.6	12.0	0.5	▲ 4.8
オーストラリア	7.2	7.0	7.6	-	8.6
トルコ	6.0	5.6	6.0	-	7.1
米国	4.6	5.2	4.5	-	▲ 13.7
消費量	134.5	143.1	146.3	1.8	2.3
うち飼料用	92.3	99.7	101.4	2.1	1.8
EU-27	54.2	57.5	59.5	1.0	3.5
ロシア	15.1	17.1	16.6	-	▲ 2.9
カナダ	7.9	9.0	8.1	-	▲ 10.4
サウジアラビア	7.4	7.7	7.5	-	▲ 2.6
トルコ	6.5	5.9	5.9	-	0.0
ウクライナ	5.1	5.3	6.1	0.5	15.1
米国	4.3	5.1	5.0	-	▲ 2.1
貿易量	15.5	20.0	17.9	0.2	▲ 10.6
(輸出)					
ウクライナ	1.0	6.4	6.0	-	▲ 5.8
オーストラリア	3.4	3.5	3.5	-	0.0
EU-27	3.8	3.5	3.0	-	▲ 14.3
カナダ	3.0	1.6	1.5	-	▲ 6.3
ロシア	1.0	3.4	2.0	0.2	▲ 41.9
アルゼンチン	0.9	0.8	0.9	-	20.0
サウジアラビア	0.8	0.3	0.5	-	71.8
(輸入)					
サウジアラビア	7.4	7.6	7.5	-	▲ 1.3
日本	1.4	1.4	1.4	-	0.0
中国	1.1	1.4	1.5	-	7.1
イラン	0.3	1.9	1.0	-	▲ 47.4
シリア	0.2	1.7	1.0	-	▲ 41.2
チュニジア	0.6	0.7	0.3	-	▲ 57.1
モロッコ	0.3	0.4	0.1	-	▲ 71.4
期末在庫量	19.7	30.6	27.2	▲ 0.6	▲ 11.2
EU-27	5.6	10.5	8.9	▲ 0.4	▲ 14.9
カナダ	1.6	2.8	2.3	1.0	▲ 19.3
オーストラリア	2.0	2.3	2.5	-	8.7
ロシア	1.0	3.7	1.2	▲ 1.2	▲ 67.7
サウジアラビア	2.4	2.3	2.3	-	▲ 1.3
米国	1.5	1.9	1.7	-	▲ 9.3
ウクライナ	0.8	1.8	1.7	▲ 0.1	▲ 5.4
期末在庫率	14.7%	21.4%	18.6%	▲ 0.6	▲ 2.8

資料: USDA 「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、収穫面積は前年度並であるが、2年連続で単収が増加するため、生産量は前年度より0.6百万トン増加(8.6%)し、7.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用向け需要の増加により、前年度より0.7百万トン増加(31.8%)し、3.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.2百万トン増加(8.7%)し、2.5百万トンとなる見込みである。また、期末在庫率は33.7%(0.5ポイント減)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦の生育は、8月まで降雨の少なかったクイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州で9月上旬に降雨があり、乾燥による生育への影響が緩和された。他の地域ではおおむね順調である。エルニーニョの影響の懸念もあり、天候に注視する必要がある。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年より減少し、豊作であった前年に比べ産地の乾燥等により単収が低下することから、前年度より2.8百万トン減少(▲24.0%)し、9.0百万トンとなると見込まれている。

消費量は、生産量の減少から前年度より0.9百万トン減少(▲10.4%)し、8.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は前年度より0.1百万トン減少(▲6.3%)し、1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.5百万トン減少(▲19.3%)し2.3百万トンとなり、期末在庫率は24.0%(2.9ポイント減)と見込まれている。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の消費量が0.9百万トン下方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.9百万トン上方修正された。また、2009/10年度の収穫面積が下方修正されたが、単収が上方修正されたことから生産量が0.1百万トン上方修正された。その結果、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦の収穫が開始された。生育遅れによる収穫前の早霜の影響が懸念されている。

我が国の輸入先国シェア1位(2008年数量ベース44.5%)
世界の生産量シェア5位(2009/10年度5.3%)
輸出量シェア2位(2009/10年度19.6%)

表-2 オーストラリアの大麦需給(市場年度:11月~翌年10月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	7.2	7.0	7.6 (7.9)	-	8.6	
消費量	3.2	3.2	3.9 (2.6)	-	21.9	
うち飼料用	2.2	2.2	2.9 (2.2)	-	31.8	
輸出量	3.4	3.5	3.5 (4.3)	-	0.0	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...	
期末在庫量	2.0	2.3	2.5 (...)	-	8.7	
期末在庫率	30.5%	34.2%	33.7% (...)	-	▲0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	4.93	4.50	4.50 (4.48)	-	0.0	
単収(t/ha)	1.46	1.56	1.69 (1.76)	-	8.3	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE「Australian crop report (15 September 2009)」(※ABAREは作付面積)

我が国の輸入先国シェア3位(2008年数量ベース21.9%)
世界の生産量シェア4位(2009/10年度6.3%)
輸出量シェア5位(2009/10年度8.4%)

表-3 カナダの大麦需給(市場年度:8月~翌年7月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	11.0	11.8	9.0 (8.7)	0.1	▲24.0	
消費量	7.9	9.0	8.1 (7.0)	-	▲10.4	
うち飼料用	6.6	7.6	6.7 (6.5)	-	▲12.2	
輸出量	3.0	1.6	1.5 (2.3)	-	▲6.3	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	▲33.3	
期末在庫量	1.6	2.8	2.3 (1.5)	1.0	▲19.3	
期末在庫率	14.3%	26.9%	24.0% (18.6%)	10.7	▲2.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	4.00	3.50	3.04 (3.08)	▲0.06	▲13.1	
単収(t/ha)	2.75	3.37	2.94 (2.83)	0.10	▲12.8	

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC「Grains and Oilseeds Outlook (7 August 2009)」

ウ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、単収は前年度より増加するものの、収穫面積が減少することから前年度より0.7百万トン減少（▲13.7%）し、4.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少により、前年度より0.1百万トン減少（▲2.1%）し、5.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.2百万トン減少（▲9.3%）して1.7百万トンとなり、期末在庫率は32.8%（2.9ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦は、収穫が終盤を迎えているが、産地が雨がちな天候であったため、作付が遅れたことから、9月20日現在で収穫率は91%と前年度より3ポイント、平年より6ポイント遅れている

作柄については良好であり、優良～良が78%と前年の最終(52%)を上回っている。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース32.1%）
世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 3.2%）〕

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年7月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	4.6	5.2	4.5	-	▲ 13.7
消費量	4.3	5.1	5.0	-	▲ 2.1
うち飼料用	0.7	1.4	1.3	-	▲ 9.1
輸出量	0.9	0.3	0.3	-	13.5
輸入量	0.6	0.6	0.7	-	3.3
期末在庫量	1.5	1.9	1.7	-	▲ 9.3
期末在庫率	28.4%	35.7%	32.8%	-	▲ 2.9
（参考）					
収穫面積(百万ha)	1.42	1.52	1.27	-	▲ 16.4
単収(t/ha)	3.23	3.42	3.54	-	3.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain：World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国大麦の進捗状況及び作柄

〔生育進捗状況（2009/10年度 主要5州）（9月20日現在）〕

収穫率 91%（平年差：▲6 p、前年差：▲3 p）

〔作柄〕（9月6日現在）

単位：%

		優良	良	普通	不良	極不良
大麦	2009/10	19	59	17	4	1
	前年度同時期	-	-	-	-	-
	前年度最終	8	44	34	10	4

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA 「Crop Progress」

注1：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

注2：9月6日の公表値に前年度同時期のデータは含まれていない。

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、豊作であった前年度と比較して、スペインや東欧等の乾燥により単収が前年度より低下することと、収穫面積が減少するため、前年度より4.8百万トン減少(▲7.3%)し、60.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増大により、前年度より2.0百万トン増加(3.5%)し、59.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.5百万トン減少(▲14.3%)し、3.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より1.6百万トン減少(▲14.9%)し8.9百万トンとなり、期末在庫率は14.3%(2.9ポイント減)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2007/08年度の実産量が0.1百万トン下方修正、消費量が0.7百万トン下方修正され、2008/09年度の実産量が0.1百万トン下方修正、消費量が0.4百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.2百万トン上方修正された。また、2009/10年度の実収面積、単収が上方修正されたことにより生産量が0.4百万トン上方修正され、消費量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.4百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦は、9月現在、おおむね収穫が終了した。フランスでは好天に恵まれ単収は増加し、一方、スペインや東欧において生育期の4月から5月に乾燥した天候となったことから単収が低下が見込まれている。

【貿易情報】

穀物の輸入関税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再導入した。

オ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、天候に恵まれ豊作であった前年度と比較して、収穫面積は増加するものの、雨が少なかったことから単収が低下すると見込まれ、前年度より0.6百万トン減少(▲4.8%)し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.8百万トン増加(15.1%)し、6.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少を受け、前年度より0.4百万トン減少(▲5.8%)し、6.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.1百万トン減少(▲5.4%)し、1.7百万トンとなり、期末在庫率は13.7%(1.3ポイント減)となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、2008/09年度の実輸出量が0.1百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量が0.1百万トン下方修正された。また、2009/2010年度の単収が上方修正されたため生産量が0.5百万トン上方修正され、飼料需要の上方修正により消費量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦については8月に収穫が終了した。東部地区で生育期に乾燥した天候となったため、豊作であった前年度より単収は減少する見込みである。2010/11年度の冬大麦の作付けが開始された。

【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

〔世界の生産量シェア 1位(2009/10年度 42.5%)〕
〔輸出量シェア 3位(2009/10年度 16.8%)〕

表-5 EU-27の大麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	57.5	65.6	60.8 (60.3)	0.4	▲7.3
消費量	54.2	57.5	59.5 (55.4)	1.0	3.5
うち飼料用	38.7	41.5	43.5 (41.9)	1.5	4.8
輸出量	3.8	3.5	3.0 (5.4)	-	▲14.3
輸入量	0.3	0.3	0.2 (0.3)	-	▲50.0
期末在庫量	5.6	10.5	8.9 (9.6)	▲0.4	▲14.9
期末在庫率	9.7%	17.2%	14.3% (15.8%)	▲0.9	▲2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.76	14.57	14.24 (...)	0.02	▲2.3
単収(t/ha)	4.18	4.50	4.27 (...)	0.02	▲5.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (27 August 2009)」

〔世界の生産量シェア 3位(2009/10年度 8.4%)〕
〔輸出量シェア 1位(2009/10年度 33.6%)〕

表-6 ウクライナの大麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.0	12.6	12.0 (11.0)	0.5	▲4.8
消費量	5.1	5.3	6.1 (6.2)	0.5	15.1
うち飼料用	3.5	3.8	4.4 (4.6)	0.5	15.8
輸出量	1.0	6.4	6.0 (4.8)	-	▲5.8
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	25.0
期末在庫量	0.8	1.8	1.7 (1.5)	▲0.1	▲5.4
期末在庫率	13.4%	15.1%	13.7% (13.3%)	▲1.2	▲1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.10	4.15	5.00 (...)	-	20.5
単収(t/ha)	1.46	3.04	2.40 (...)	0.10	▲21.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (27 August 2009)」

カ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より7.1百万トン減少（▲30.7%）し、16.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、食料用及び飼料用の需要が減少することなどから、全体で前年度より0.5百万トン減少（▲2.9%）し、16.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少を受け、前年度より1.4百万トン減少（▲41.9%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、2.5百万トン減少（▲67.7%）し1.2百万トンとなり、期末在庫率は6.4%（11.6ポイント減）となる見込みである。

なお、前月からの予測の改訂は、生産量が1.0百万トン下方修正され、輸出量が0.2百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は1.2百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大麦の収穫は終盤を迎えている。

ロシア農業省の発表では、9月23日時点の大麦の収穫量は17.1百万トンで、豊作であった前年同時期の74%程度である。南ウラルや沿ボルガ地域の一部での干ばつの影響等から、豊作であった前年度より単収が減少する見込みである。

2010/11年度の冬大麦の作付けが開始された。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 11.2%）
輸出量シェア 4位（2009/10年度 11.2%））

表－7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値 (IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	15.7	23.1	16.0 (17.0)	▲ 1.0	▲ 30.7
消 費 量	15.1	17.1	16.6 (17.0)	-	▲ 2.9
うち飼料用	10.5	12.3	12.0 (12.0)	-	▲ 2.4
輸 出 量	1.0	3.4	2.0 (2.2)	0.2	▲ 41.9
輸 入 量	0.2	0.1	0.1 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	1.0	3.7	1.2 (2.3)	▲ 1.2	▲ 67.7
期末在庫率	6.4%	18.0%	6.4% (12.0%)	▲ 6.6	▲ 11.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.60	9.60	9.10 (…)	▲ 0.60	▲ 5.2
単収(t/ha)	1.63	2.41	1.76 (…)	0.01	▲ 27.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (27 August 2009)」